

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果

様式1(高等学校)

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖工業高等学校 定時制
-----	------------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> どの評価項目も概ねまたは、十分達成できたと考える。 基礎学力の向上は、成果が出ており今後も重点的に取り組む目標である。今後も生徒の実態に応じた工夫を行いながら全職員で計算力アップトレーニングを行い、基礎学力の向上を目指す。 進路指導では、進路のしおりの内容を更新し、活用することで希望進路の実現を目指す。生徒が社会との関わりの中で、進路意識の向上と希望進路の実現に向け生徒の主体性を導き出すようなキャリア教育を推進する。 教職員の生徒への声掛けと温かい給食の提供により生徒の喫食率は向上している。健康に食は大切であると考え生徒自ら食の自己管理ができるようにする。
------------------	--

2 学校教育目標	働きながら学ぶという基盤に立ち、広い視野と豊かな創造力を持ち、自ら学ぶ意欲と自らを律する力を備え、心身共にたくましく、個性豊かで人間愛に満ち、社会に貢献できる人材を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習意欲を向上させ、主体的・自主的な学習態度及び読み解く力を育成する。 ② 進路指導の充実を図り、希望進路の実現を目指す。 ③ 健康管理とスポーツの振興を図る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上を目指した活動の実施	○計算力アップトレーニング(以下ケアトレ)の積み重ねにより基礎学力の向上を実感した生徒80%以上を目指す。	・定期的なケアトレを行い、学習の積み重ねによる達成感をもたせる。 ・基礎学力の定着を実感させる。	B	・現在、ケアトレを5回実施した。各自のペースで学習する姿が見受けられている。概ねできているとアンケート回答した生徒80%以上を目指す。	B	・ケアトレを年間で13回実施できた。各自のペースで学習する姿が見受けられている。概ねできているとアンケート回答した生徒の割合は77.4%であった。1・2年生よりも3・4年生の方が基礎学力の向上を実感できた生徒の割合が多かった。(1・2年は58.3%、3・4年は89.5%)	B	・3・4年生の方が基礎学力の向上を実感できたのは、1・2年生からの取組の成果ではないかと思えます。 ・基礎学力の向上のため、生徒と向き合っておられる教職員の皆様の熱意に感謝いたします。	教務部	
	○資格取得	○資格取得に積極的に取り組ませ、検定合格70%、国家資格取得50%以上を目指す。	・資格取得に主体的に取り組ませ、進路選択に、役立たせる。	B	・資格取得を目指して、生徒は、主体的に取り組んでいる。引き続き、検定合格70%、国家資格取得50%以上を目指す。	A	・資格取得を目指して、生徒が主体的に取り組んだことから、二級ボイラー技士50%、第一種電気工事士筆記試験100%、第二種電気工事士66%、基礎製図検定60%、計算技術検定3級100%、計算技術検定4級75%、パソコン利用技術検定3級75%と、目標の合格率を十分達成できた。	A	・資格取得は、自らの自信に繋がっていくと思われれますので、今後も大いに推進してまいります。 ・資格取得への指導は、大変すばらしいと思います。本人にとって、資格は将来の武器となります。	工業科	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権・同和教育や進路保障の学習会をホームルーム等を通して、基本的人権の尊重を重視できる生徒の割合100%を目指す。	・人権・同和教育に係る講話を行う。 ・人権・同和教育や進路保障の学習会をホームルームにて実施する。 ・必要に応じて人権・同和教育に関する講話を実施する。	A	・6月中旬に、1・2年生については人権学習のHR、3・4年生については進路保障のHRを実施し、生徒の人権意識の向上に努めた。 ・今後、人権・同和教育に係る講話を行うなど、引き続き、基本的人権の尊重を重視できる生徒100%に取り組む。	B	・6月下旬に、1・2年生については人権・同和教育のHR、3・4年生については進路保障のHRを実施し、生徒の人権意識の向上に努めた。 ・12月の人権・同和教育学習会は「異文化理解・多文化共生」をテーマに実施した。学習会後の感想文では、これまでの自分の経験をきちんと振り返っている生徒やこれからの自分の行動について前向きに考えることができている生徒の割合は、9割を超えた。	B	・一人ひとりの個性を受け止め、相手を認めることが出来る生徒の育成をよろしくお願いたします。	進路指導部 人権・同和教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見、早期対応に向けて、いじめの問題への対応に係る年間計画に基づき、その取組を100%実施する。	・いじめ対応についての職員研修を前期と後期に行う。 ・定期的に学校生活アンケートを実施して早期発見につとめる。	A	・4月にいじめの初期対応について職員研修を行い、5月には保護者用いじめアンケートを配布した。また、6月には学校生活アンケートを実施した。いじめ事案は発生していないが、引き続き、注意深く生徒観察等が必要である。	A	・いじめ問題の対応に係る年間計画に従って、職員研修を2回行うとともに、生徒への全体指導やいじめ防止教育、生徒会における啓発活動、関係リーフレットの配布、学校生活アンケート(生徒・保護者)の実施等、その取り組みを100%実施することができた。	A	・地道な活動が実を結んだものでよかったです。 ・いじめ定義の変遷により、教育現場の職員の皆様には、ご苦労も多いこと存じます。多感な時期の青少年に対し、親身に相談に乗って頂ける環境は有難いことだと思えます。	生徒指導部	
●健康・体づくり	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○佐賀県の良さに理解を深めることができた生徒80%以上を目指す。	・「佐賀語り」を使用して、佐賀県の偉人、歴史、自然、今について学ぶ。 ・佐賀県について、興味を持ったことを学習用PC等を活用し、調べ学習を行い、理解を深める。	B	・佐賀県のことを学ぶ時間をHRで実施した。「佐賀語り」のテキストやDVDを活用した学習を行っている。引き続き、佐賀県の良さに理解を深めることができた生徒80%以上を目指す。	B	・佐賀県のことを学ぶ時間等を通して、佐賀県の偉人、歴史、自然、今について学習を行った。佐賀県の良さに理解を深めることができた。アンケートで「できている」「だいたいできている」とアンケート回答した生徒は71.0%であった。	B	・郷土愛に繋がる意識づくりを今後ともよろしくお願いたします。 ・生徒本人に対し、佐賀県のどこが好きか、機会があれば何をしたいかを問うて欲しいです。	教務部	
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%を達成する。	・定期的に「保健だより」を発行する。 ・講演会や生徒個人面談等を通して、健康に関する意識を高める。 ・給食指導(手洗いや給食マナー)の徹底を図る。	A	・定期的に保健だよりを発行するとともに、食育講話を実施するなど、生徒の健康に関する意識向上に努めた。しかしながら、給食をとらない生徒や給食の時間に間に合わない生徒もみられた。今後も食育指導を続けて健康に食は大切であると考え生徒100%を目指す。	A	・毎日、生徒の登校時に、給食室で、生徒全員に対して、健康観察のための声かけと体温測定を実施している。その際に給食をきちんと食べるように呼びかけている。その成果もあって、今まで給食を食べていなかった生徒も給食を食べるようになってきた。アンケートの結果、健康に食は大切であると考えた生徒は、100%であった。今後も生徒一人ひとりの声かけや「保健だより」等を通して健康に対する意識を高めていきたい。	A	・今はコロナ禍で難しいが、給食時のコミュニケーションも大切なので、仲間と一緒に食事をしようとしてください。 ・食育、体づくりまで、学校で指導して頂けることに有難いと思えますと共に、教職員の皆様の負荷はいかばかりかと思っております。引き続き、生徒の心の成長を見守り、ご指導よろしくお願致します。	保健厚生部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○運動習慣の改善や定着化	○基礎体力と持久力の向上のために、授業において体づくり運動等を90%以上実施する。	・体育の冒頭において、時間を設定してランニング、縄跳び、ダブルダッチ等を実施する。 ・部活動を通して、生涯スポーツの基礎を身につける。	A	・基礎体力や持久力の向上のために、体育の授業において、ランニング、縄跳び等の体づくり運動等を実施し、運動量の確保に努めた。また、部活動においても、活動時間を十分に確保し、体力向上を図った。今後授業において、体づくり運動等の90%以上実施を目指す。	A	・授業において、体づくり運動を毎回入れることで、運動量を確保できた。そのことにより「基礎体力や持久力の向上、運動の習慣が身につけている」概ね身についている」と96.7%の生徒が学校評価アンケートに回答した。今後も体育の授業において、運動量の確保に努めていく。	A	・大人になっても体づくり運動が継続できるよう、大いに指導をしてください。	保健体育科	
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校閉庁日の設定 ・勤務時間を意識した業務の効率化を図るように声かけを行う。	A	・時間外勤務時間の削減のため、勤務時間を意識した業務の効率化を図るよう声かけを行った。また、学校閉庁日は8月に設定し、閉庁を行った。引き続き、勤務時間を意識した業務遂行の効率化を図るよう声かけを行う。	A	・時間外勤務時間の削減のため、勤務時間を意識した業務の効率化が図られるよう、より一層声かけを行ったことから、勤務時間終了後、時間外勤務をする職員は一人もいなかった。勤務時間を意識した業務遂行の効率化は、職員に浸透してきており、引き続き、職員への声かけを行っている。	A	・意識づくりで労働生産性をあげ、メリハリのあふ業務遂行を今後とも目指してください。 ・先生方のためにも休みをきちんと取得する事は、大切だと思います。	教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
○希望進路の実現	○4年次の進路指導を学科、学年、教科と連携し、見える化した形で従来よりも早期に着手する。 ○生徒の実情に即した「進路のしおり」を作成し、学科、学年、教科と連携した計画的な指導を実施する。	○4年生の自己理解とキャリアイメージを確認し、第1希望の実現80%以上を目指す。 ○「進路のしおり」を更新作成・導入し、1年次からキャリア教育を実施し、進路意識が向上した生徒80%以上を目指す。		・担任面談、進路指導部面談等を密に実施し、キャリアイメージの深まりや希望進路の実現のための取り組みについて確認・助言する。 ・各学年毎の取り組みを明確化した進路指導計画を作成、実施し、年度途中及び年度末に確認、評価、修正を行う。	B	・定期的に4年生担任と進路指導部の合同会議を行った。また、事前に4年生の生徒に「進路のしおり」等の資料を配布し、従来よりも早く就職活動を進めることができた。 ・各学年毎の進路指導計画については、進捗状況を把握し、修正を行いながら実施している。 ・引き続き、進路意識が向上した生徒80%以上を目指す。	B	・進路指導部全員が、担任、保護者、全日制進路指導部と連携を図り、生徒一人ひとりの希望に沿った指導に当たった。夏季休業中もほぼ毎日の指導を実施した結果、全員が第一希望の企業や学校から内定や合格を得ることができた。 ・4年生用の「進路のしおり」の作成はできたが、1年生から4年生までの流れを見据えた資料の作成には至らなかった。今後は、1・2年生の生徒の進路意識の喚起を考えた資料の作成や指導が必要である。 ・1年次からキャリア教育を実施し、進路意識が向上した生徒は80%であった。	B		・指導の適正化等、よく実施されていると思えます。 ・熱心な進路指導をありがとうございます。定時制で4年間をかけて、自分の進みたい道を模索する生徒の背中を見守り、導いて頂きたいと思えます。
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> どの評価項目も概ねまたは、十分達成できたと考える。 基礎学力の向上は、令和2年度より更に成果が出ており、今後も重点的に取り組む目標である。引き続き、生徒の実態に応じた工夫を行いながら、計算力アップトレーニングを計画的に行い、基礎学力の向上を目指す。 進路指導では、定時制進路指導部が担任、保護者、全日制進路指導部と密に連携を図ることで、希望進路の実現を目指す。引き続き、生徒が社会との関わりの中で、進路意識の向上と希望進路の実現に向け、生徒の主体性を導き出すようなキャリア教育を推進する。 いじめの問題への対応に係る年間計画があり、その取り組みを実施できた。引き続き、いじめの問題への対応に係る年間計画に基づき、その取り組みを実施することで、いじめの早期発見・早期対応に努める。 										

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育